

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 16 年 9 月 30 日 (2004.9.30)

【公開番号】特開 2003-75778 (P2003-75778A)

【公開日】平成 15 年 3 月 12 日 (2003.3.12)

【出願番号】特願 2001-268069 (P2001-268069)

【国際特許分類第 7 版】

G 0 2 B 27/28

G 0 2 B 5/30

G 0 3 B 21/00

G 0 3 B 21/14

G 0 3 B 33/12

【F I】

G 0 2 B 27/28 Z

G 0 2 B 5/30

G 0 3 B 21/00 E

G 0 3 B 21/14 A

G 0 3 B 33/12

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 9 月 12 日 (2003.9.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 0】

図 1 においては、偏光変換素子 4 により S 偏光とされた光は、ダイクロイックミラー 6 によって分解された後も S 偏光 (・) となっている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 3】

ここで、第 2 の色選択性位相差板 8 b と第 3 の偏光ビームスプリッター 1 1 c との間に第 2 の 1 / 2 波長板 1 0 b (不図示) を配置し、第 2 の 1 / 2 波長板 1 0 b の遅相軸を透過する偏光方向と同じ方向 (偏光状態を変換しない方向) に設定し、G のときと同じように、第 2 の 1 / 2 波長板 1 0 b の遅相軸の傾き調整を行うことで、R, B の光の偏光方向が第 3 の偏光ビームスプリッター 1 1 c の偏光分離面に対して適切に入射するように調整し、第 3 の偏光ビームスプリッター 1 1 c における非投射光の漏れが最小となるようにすることができ、R, B における黒表示の画像調整をすることもできる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 7】

以上、本願発明の実施形態について説明を行ったが、上記の第 1 実施形態 (図 1) および

第 2 実施形態（図 5）におけるダイクロイックミラー 6 の代わりに、偏光ビームスプリッターを用いても構わない。その際、色分解する 3 色の色光の光路を本願実施形態 1 及び 2 と同様にするためには、ダイクロイックミラー 6 の代わりに配置する偏光ビームスプリッターより光源側に、緑色の偏光成分を赤色及び青色の偏光成分と異ならせる特性を有する色選択性位相差板を配置することが必要である。